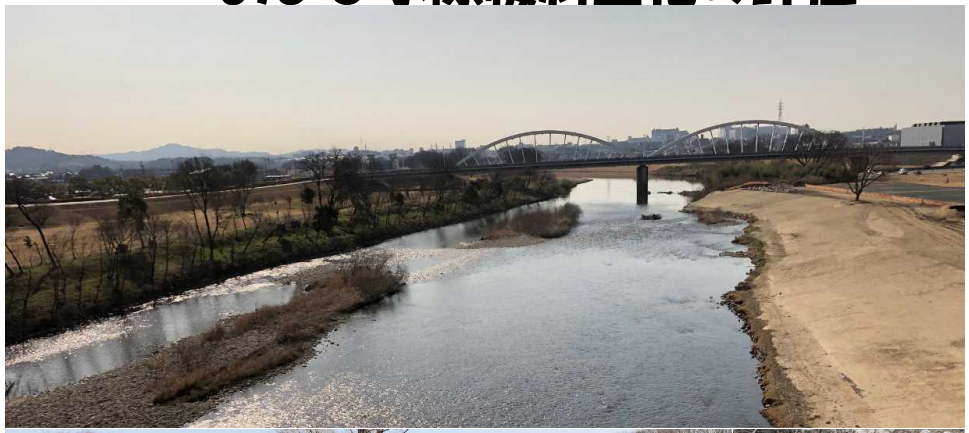
資料３

豊田大橋周辺の瀬再生事業および水際緩斜面化の評価



豊田大橋周辺の瀬の再生事業および水際緩斜面化の評価

目的

- 瀬の再生事業により、アユを初めとする水生生物の生息環境が改善され，生物多様性が高まるかを評価する
- 水際の緩斜面化により、矢作川で少なくなっているエコトーンの植物群が再生するかを検証し、今後の河川改修事業への提言を行う

調査方法

- 再生を行う瀬および対照区（陣中の瀬）の2ヶ所において
  （1）アユ：潜水観察，友釣り調査
  （2）付着藻類：一次生産量・光合成活性・種組成を調査分析
  （3）水生昆虫：造網性トビケラのコドラート調査
- 水際が緩斜面化される3ヶ所で、緩斜面化実施の前後に
  （1）植生調査：出現種と群落構造の調査
  （2）抽水植物出現種の記録

期待される成果

- 瀬の再生により，アユの釣果が回復し，水生生物の多様性が高まる
- 矢作川で希少となっているエコトーンの植物群が回復する
- 親水性が高まり、川に活気が戻る

4.豊田大橋周辺

水生生物調査

目的

瀬の再生により．．．

➢アユの生息環境が回復するか

➢餌となる付着藻類，河床環境の指標となる造網性トビケラ類がどう変化するか

調査方法

➢アユ：夏季に潜水観察，友釣り調査を行う

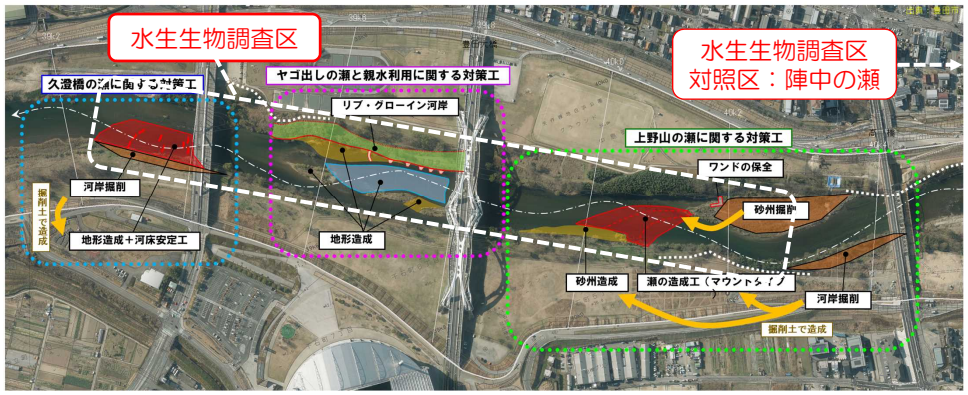
➢付着藻類：夏季に現存量・種組成を調査分析する

➢造網性トビケラ：冬期（初春）に定性調査を行う

4.豊田大橋周辺

調査場所

- 瀬の造成を予定している4ヶ所および対照区として上流にある陣中の瀬の計5ヶ所



4.豊田大橋周辺

方法 アユの生息密度の観測

ラインセンサス法（30m）

ラインを潜水して下り、アユの生息密度とサイズを観測

なわばりアユを記録し、その割合をとりまとめる

観測場所

陣中（対照区）

高橋（対照区）

豊田大橋（施工区）

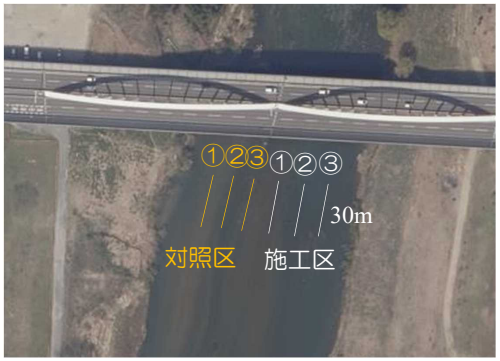
久澄橋（施工区と対照区）

観測日

9月20日（金）

9月30日（月）

久澄橋



豊田大橋

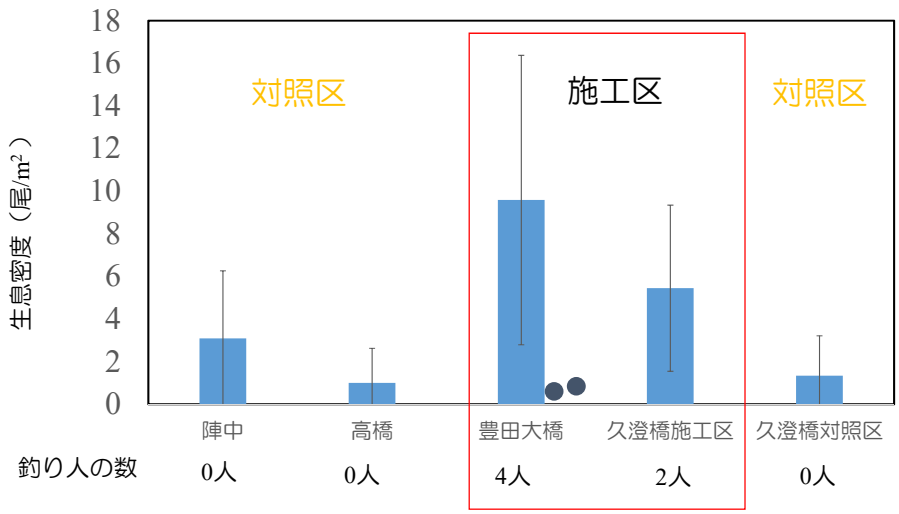
対照区

高橋（たかばし）

対照区

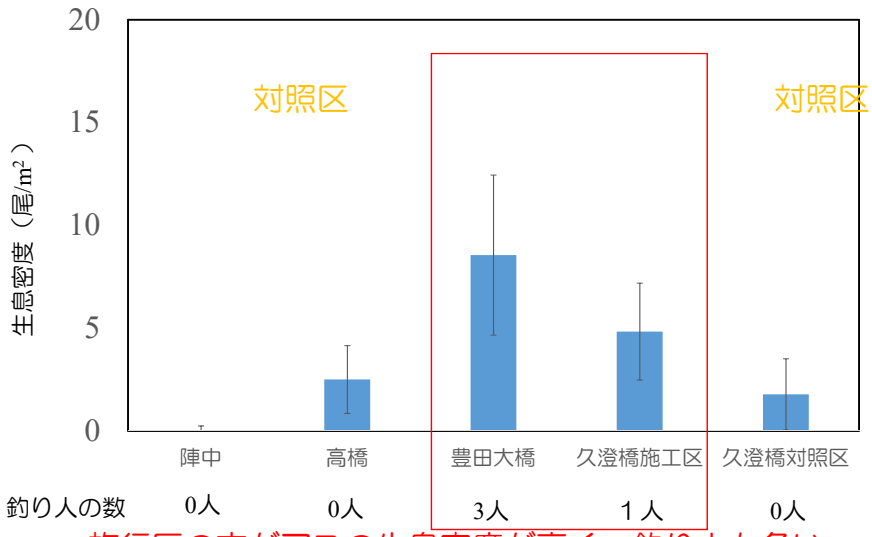
陣中の瀬

地点別アユの生息密度（9月20日）



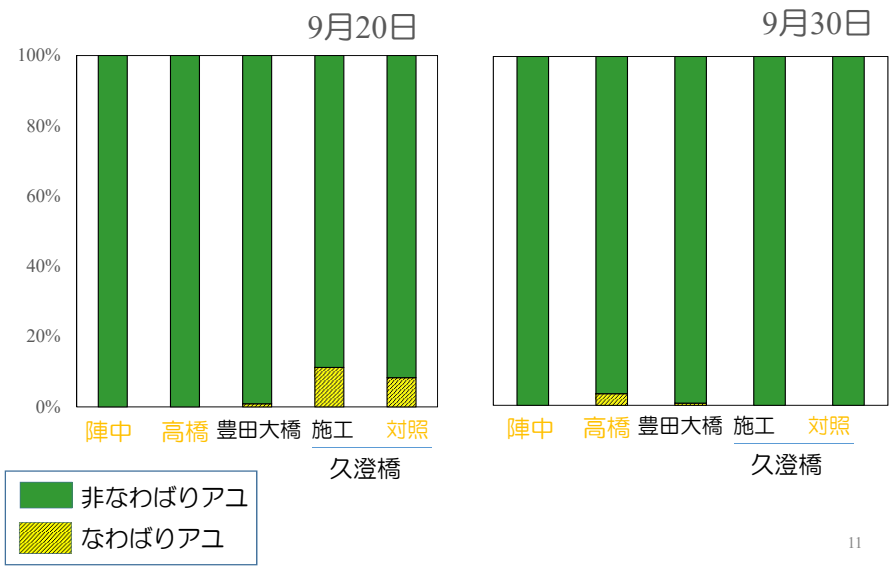
施行区の方がアユの生息密度が高く、釣り人も多い

地点別アユの生息密度（9月30日）



施行区の方がアユの生息密度が高く、釣り人も多い

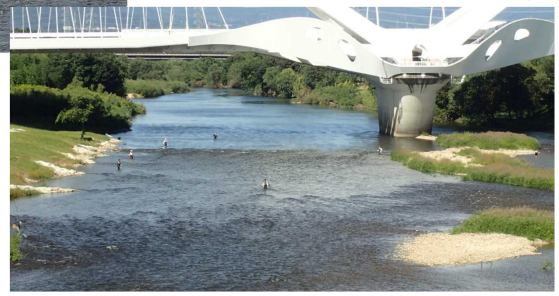
なわばりアユの割合



アユ釣り客で賑わう豊田大橋周辺

9月18日（水）

10月6日（日）



次年度以降も継続的に観測を実施

礫を投入した場所でのアユの生息状況（まとめ）

- 施工区での生息密度が5.4～9.6尾/m^2と対照区0.04～2.5尾/m^2よりも多くなっていた
- 釣り人の数も施工区で多くなっていた
- 施工区でなわばりアユが確認された

アユの蝟集効果が確認

今後の予定

- 冬季に造網性トビケラの定性調査の実施
- 次年度も効果の持続性のアセスメント調査を実施